

## 【水の里の旅コンテスト2015 応募企画】

後藤 竜裕

水文化が熱い！水郷日田の水源を巡る旅  
～水文化と町人文化の天領日田へタイムスリップ～

観光地域：大分県日田市

【日程】	2泊3日		
【実施時期】	春・夏・秋（実施時期：イベントにあわせて実施）		
【催行人員】	約40名（最少催行人員：名）	【お勧めする旅行者層】	老若男女問わず。ぜひ下流地域の方々。
【旅行代金】	約55,000円 (大人1名)	【内 訳】	
		交通費 福岡空港～日田観光～福岡空港 20,000円/1人 宿泊費 30,000円/2泊 松原ダム・梅林湖遊覧船(1,500円) 天領日田資料館(310円) 日本丸館(350円) 着物着付け(レンタル着物:2,000円、レンタル浴衣1,500円)	
【企画趣旨】			
<p>日田市は「水の郷百選」にも選ばれ、周囲を山に囲まれた盆地に、多くの河川が流れ込み天領日田と呼ばれた時代より水文化と町人文化が共存共栄して、今では「水郷日田」として「日田天領水」と共に知名度をあげている。</p> <p>それも古くから流域のために治水工事や通船用への川の整備などが行われ、現代になってからは筑後川上流の蜂の巣城抗争で有名な下笠ダムの建設があり、この地元の反対運動はその後の公共事業の進め方に大きな教訓をもたらしました。</p> <p>その様々な犠牲を払って下流域のために協力してきた人々が居た事も忘れてはなりません。是非その事を下流の人々には理解してもらい、共感と感謝の気持ちを持っていただくとともに、観光客にも日田の素晴らしさを体験していただきたい。</p> <p>ダムを造り、水源、森林、環境、水文化を大切に守ってきた水の里が今の「水郷日田」である。日田市は、「水郷日田」を前面に押し出して、水文化や三隈川、歴史上天領であったことなどを観光資源としています。水文化としては、きれいな水が豊富な事を背景に、川開き観光祭、リバーフェスタ三隈川、鮎やな場の開催のほか、「水清きところに美酒有り」ということもあり、古くからある酒蔵の他、いいちこ日田蒸留所、サッポロビール工場新九州工場の誘致にも成功しています。</p> <p>小鹿田焼きは、国の重要無形文化財に指定されており、粘土作りは水の力を利用した唐臼での製造にこだわっています。</p> <p>「日田祇園の曳山行事」は、国より重要無形民俗文化財の指定を受けており、この度、ユネスコ無形文化遺産の候補として国連教育科学文化機関（ユネスコ）に一括提案されることが決定しました。</p> <p>また、環境保全にも力を入れており、里山保護のために竹の駆除を目的に千年明かりを企画し、市民総出で、駆除した竹を灯籠として豆田町に飾ると共に、花月川河川敷に敷き詰め、訪れる人に感動を与えています。</p> <p>このように、日田市は、伝統文化の継承と新たな文化の創出に力を入れ、また、下流のため、地域のため、未来のために様々な水の恩恵を最大限に引き出している地域です。</p> <p>本企画は、昨今新たな観光スタイルとして注目を集めている、インフラ観光（ダムツーリズム・ダムマニア）、工場見学、漫画聖地（進撃の巨人）巡りなども盛り込んでおり、これまでの観光地巡りに新たなニーズを加え、リピーターはもとより新規に日田を訪れるきっかけを提案するものです。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
【企画協力（後援）機関・団体名等】		【企画協力（後援）機関・団体名等】	
【主な役割】		【主な役割】	
① 国土交通省（下笠ダム・松原ダム）	ダム見学	④ サッポロビール工場	施設見学
② 独立行政法人水資源機構（大山ダム）	ダム見学	⑤ いいちこ日田工場	施設見学
③ 薫長酒造資料館	施設見学	⑥	
【特記事項】			
【催行実績】	無し		

【 行 程 表 】

1日目	(インフラ見学) 【9:00】福岡空港(バス)～【11:00】下笠ダム見学～【12:00】松原ダム見学・昼食・遊覧船～【15:00】ひびきの郷(温泉・梅酒工場見学・体験工房等自由行動・宿泊)(希望者は、烏宿神社散策可能(体力に自信のある方)又は、大山ダム見学)を、本コースの基本として、季節のイベント(2月:梅まつり、7月大山ふるさと夏まつり、12月:烏宿神社裸参り)をアレンジ。
2日目	(日田市内観光) 【9:00】ひびきの郷～【9:30】豆田町散策・かんぎ園(国指定史跡)・廣瀬資料館・日本丸館・薫長酒造資料館・天領日田資料館・昼食(オプションで着物・浴衣体験)～【14:00】サッポロビール工場～【16:00】日田温泉着(亀山公園散策・日田祇園山鉾会館・遊覧船・鶺鴒い)を本コースの基本として、季節のイベント(3月:天領日田おひなまつり、5月:川開き観光祭り、7月:日田祇園祭、8月:リバーフェスタ三隈川、11月:日田天領祭・千年明かり、夏季:観光鮎やな)をアレンジ。
3日目	(日田市郊外) 【9:00】日田温泉～【10:00】小鹿田焼き・棚田【12:00】いいちこ蒸留所～【13:00】日田天領水・元気の駅(昼食・おみやげ・足湯・朝霧の館(国土交通省))～【16:00】日田出発～【17:00】福岡空港

【 主な観光ポイント(観光地・観光箇所の歴史、由来など) 】

【ポイント1】	【ポイント2】	【ポイント3】
<p>しもぎけ 下笠ダム FNP Ver.1.0 (2007.07)</p>	<p>蜂の巣城 昭和39年 代執行前 Ver.1.0 (2007.07)</p>	<p>まつばら 松原ダム FNWP Ver.1.0 (2007.07)</p>
<p>ダムの型式は筑後川水系で唯一のアーチ式コンクリートダム。高さ98mで、ダムの上からの眺めは大迫力。</p> <p>このカードは、ダムカードと言い、ダムに行かないと貰えないもので、コレクターも多く存在します。</p> <p>最近、ダムマニア等多く存在し、インフラ観光も注目されています。</p>	<p>建設省(現国土交通省)は、筑後川上流部にダムを計画しましたが、計画段階から地元住民の理解が得られず、蜂の巣城紛争となり解決まで約13年かかりました。</p> <p>その後の公共事業の進め方に大きな教訓をもたらしました。</p> <p>蜂の巣城紛争の中心人物の室原知幸氏は、当時「公共事業は法にかない、理にかない、情にかなうものでなければならない。」という有名な言葉を残しています。実に感慨深く、考えさせられるものです。</p> <p>写真:国土交通省下笠ダム管理事務所展示室より。</p>	<p>松原ダムは、下笠ダム下流に位置する重力式コンクリートダムで、高さ82mです。</p> <p>筑後川の治水、福岡市等の下流の利水、水力発電を目的として造られたダムです。</p> <p>このように、松原ダムと下笠ダムの建設には、様々な犠牲を払って下流域のために協力してきた人々が居た事を忘れてはなりません。是非その事を下流の人々には、水源地のことを理解し、共感と感謝の気持ちを持っていただきたい。</p>

【ポイント4】	【ポイント5】	【ポイント6】
		 
<p>ダムによって誕生した人造の湖は「梅林湖」という愛称で親しまれています。</p> <p>梅や桜、新緑、紅葉、雪景色と四季折々の変化が楽しめます。船のエンジンを停止してゆったり揺れる船上で感じる静けさは、心も体もリフレッシュできること間違いなし。</p> <p>記事・写真：<a href="http://matsubara-dam.com/">http://matsubara-dam.com/</a></p>	<p>最近各地で流行しているご当地ダムカレー。ここでは、松下カレーなる松原ダムと下笠ダムが一皿で味わえる2段熟カレー。他にはない???ぜひ昼食にいただきたい一品。</p> <p>販売店：おすそわけ野菜のレストラン松原  写真：<a href="http://area.walkerplus.com/walker47/article/detail/ar1044204/le2519/20150813/2_201508131641051473/">http://area.walkerplus.com/walker47/article/detail/ar1044204/le2519/20150813/2_201508131641051473/</a></p>	<p>進撃の巨人の聖地の大山町。進撃の巨人にゆかりのある風景がそこにはある。</p> <p>また、大山町にある温泉宿泊施設「ひびきの郷」。露天風呂から眺めるひびき溪谷の美しさは格別であり、入浴後は食事処「せせらぎ」で湯あがりのひとときを楽しむことができます。</p>
【ポイント7】	【ポイント8】	【ポイント9】
		
<p>宿泊先ひびきの里より車で約10分。進撃の巨人のイベントも開催されるなどで有名。</p> <p>重力式コンクリートダムで、高さ94m 2013年度完成したまだ新しいダム。</p> <p>この時点でダムカードを3枚ゲット。どこか、もっと集めたくなるかも……。</p>	<p>豆田の界隈には基盤の目のような町筋に江戸時代の古い町並みが息づいており、往時の繁栄ぶりを彷彿とさせる。</p> <p>記事：  <a href="http://www.pref.oita.jp/site/archive/201223.html">http://www.pref.oita.jp/site/archive/201223.html</a> 天領祭り</p>	<p>着物・浴衣を着て、豆田町を散策。日本文化に触れ、日田の町人文化に触れ、水文化に触れる。</p> <p>梶原毛糸店</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持込み着付け 500円</li> <li>・レンタル着付け 着物 2000円 浴衣 1500円</li> </ul> <p>画像：おいでひた.COM</p>

【ポイント10】	【ポイント11】	【ポイント12】
		
<p>○酒蔵資料館（入場無料）</p> <p>築 180 年の酒蔵の少し急な階段を上ると、そこはあっと驚く広い空間。</p> <p>圧巻は酒蔵の造りそのものです。太い松材の梁が天井を縦横に走り、長い年月酒蔵を支えてきたことを感じさせます。その酒蔵を資料館として公開し、実際に使われていた昔の酒造りの道具をたくさん展示しています。</p> <p>写真・記事：  <a href="http://www.kuncho.com/original10.html">http://www.kuncho.com/original10.html</a></p>	<p>○咸宜園（入園料無料）</p> <p>咸宜園は、江戸時代後期に生まれた儒学者・廣瀬淡窓が豊後・日田に開いた日本最大規模の私塾（学校）です。「咸く宜し」（ことごとくよろし）とは、すべてのことがよろしいという意味で、淡窓は門下生一人ひとりの意思や個性を尊重する教育理念を塾名に込めました。</p> <p>日田市では、「咸宜園」を茨城県水戸市の「弘道館」、栃木県足利市の「足利学校」、岡山県備前市の「閑谷学校」と共に、「近世日本の教育遺産群」として世界遺産登録を目指しています。</p> <p>記事：  <a href="http://www.city.hita.oita.jp/kangien/index.html">http://www.city.hita.oita.jp/kangien/index.html</a></p>	<p>日田の街の中央を流れる三隈川、夏の夕暮れ時に三隈川に集まる屋形船、その中央に現れる鵜匠たち。</p> <p>江戸時代の直轄地、天領として繁栄した深い歴史を感じる水郷日田の夏の風物詩です。</p> <p>現在、大分県の重要無形文化財に指定されている鵜飼いは、天領時代に娯楽慰安の為に鵜匠を連れてきた事が始まりと言われ、以後、夏の日田には無くてはならないものになりました。</p> <p>鵜匠のいる川面は豪華絢爛な古典絵巻のようです。</p> <p>写真・記事：  <a href="http://www.kizantei.com/yakata/">http://www.kizantei.com/yakata/</a></p>
【ポイント13】	【ポイント14】	【ポイント15】
		
<p>○川開き観光祭(花火)</p> <p>筑後川水系の鮎漁解禁と鵜飼いのシーズンの幕開けに合わせて行われ、三隈川を中心に各種イベントが開催されています。</p> <p>その日のフィナーレとして、2夜連続で花火大会が開催。日田特有の盆地の地形からこだまする花火の音や体に響く衝撃は素晴らしく、他では味わえない迫力となっています。</p> <p>写真：  <a href="http://www.kizantei.com/yakata/">http://www.kizantei.com/yakata/</a></p>	<p>千年あかりは、「日田天領まつりに夜のイベントを」ということで、平成 17 年から始まりました。</p> <p>豆田の方や地元高校生を中心に、真心込めて作られた 3 万本の竹灯ろうが、花月川河川敷や豆田の古い町並みを優しく照らし出し、見る人を幽玄の世界へと誘います。</p> <p>また、期間中は、各所に光のオブジェが展示され、様々なイベントも実施されます。</p> <p>あなたも、幻想的な夜に浸ってみませんか？</p> <p>記事：  <a href="http://www.city.hita.oita.jp/kanko/page_00005.html">http://www.city.hita.oita.jp/kanko/page_00005.html</a></p>	<p>国の重要無形文化財に指定され、2008 年 3 月には地区全体（約 14 ヘクタール）が「小鹿田焼の里」の名称で重要文化的景観として選定されています。</p> <p>小鹿田焼に欠かせない唐臼は、豊富な水源を持ち、水の力を利用して粘土を砕く独特な仕組みで「残したい日本の音風景百選」に選ばれており、現代のエネルギー、機械化による量産体制にはない自然のエネルギーを利用して心のこもった日本のものづくりを感じることができます。また、周辺には、その地形の特色より素晴らし風景が広がり、一部では棚田が継承されています。</p>

【ポイント16】



○ひた鮎やな場

やな漁とは、川を下る鮎を獲る漁法であり、平成元年に淡水漁法・観光の振興をはかるため「ひた鮎やな場」は設立されました。

また期間限定（7月～11月）で営業を行っている鮎料理専門店もあり、水郷日田で育った鮎は日田に来たら是非とも食べていただきたい一品です。

写真：

<http://www.bonchi-hita.jpn.org/archives/537>

【ポイント17】



○日田祇園祭

約300年の歴史を誇る日田の夏の伝統行事「日田祇園祭」。疾病や風水害を払い安泰を祈願するこの祭りでは豪華で優雅な山鉦が豆田地区、隈・竹田地区を練り歩きます。

写真：

<http://www.kyushu-sanpo.jp/matsuri/oita/hita-gion-kaomise-3/hita-gion-kaomise-3.html>

【ポイント18】



江戸幕府の西国筋郡代の役所が置かれ、九州随一といわれるほどの繁栄を極めた天領日田。

掛屋を中心とする豪商たちが活躍し、町人文化が花開いた日田の旧家には、京や大阪で買い求めた絢爛豪華なひな人形やひな道具の数々が今も残されていて、おひなまつりの期間中、豆田町や隈町の旧家や資料館でひな人形やひな道具を、一斉に展示・公開しています。

春のひとつき、昔ながらの町並みに風情を感じながら、ゆったりとおひな探しに出掛けてみませんか。

【開催時期】2月中旬～3月末

【開催場所】豆田町、隈町、天瀬町の各資料館・施設

写真・記事：

[http://www.city.hita.oita.jp/kanko/page\\_00006.html](http://www.city.hita.oita.jp/kanko/page_00006.html)